

新病院基本計画の概要 (中間報告)

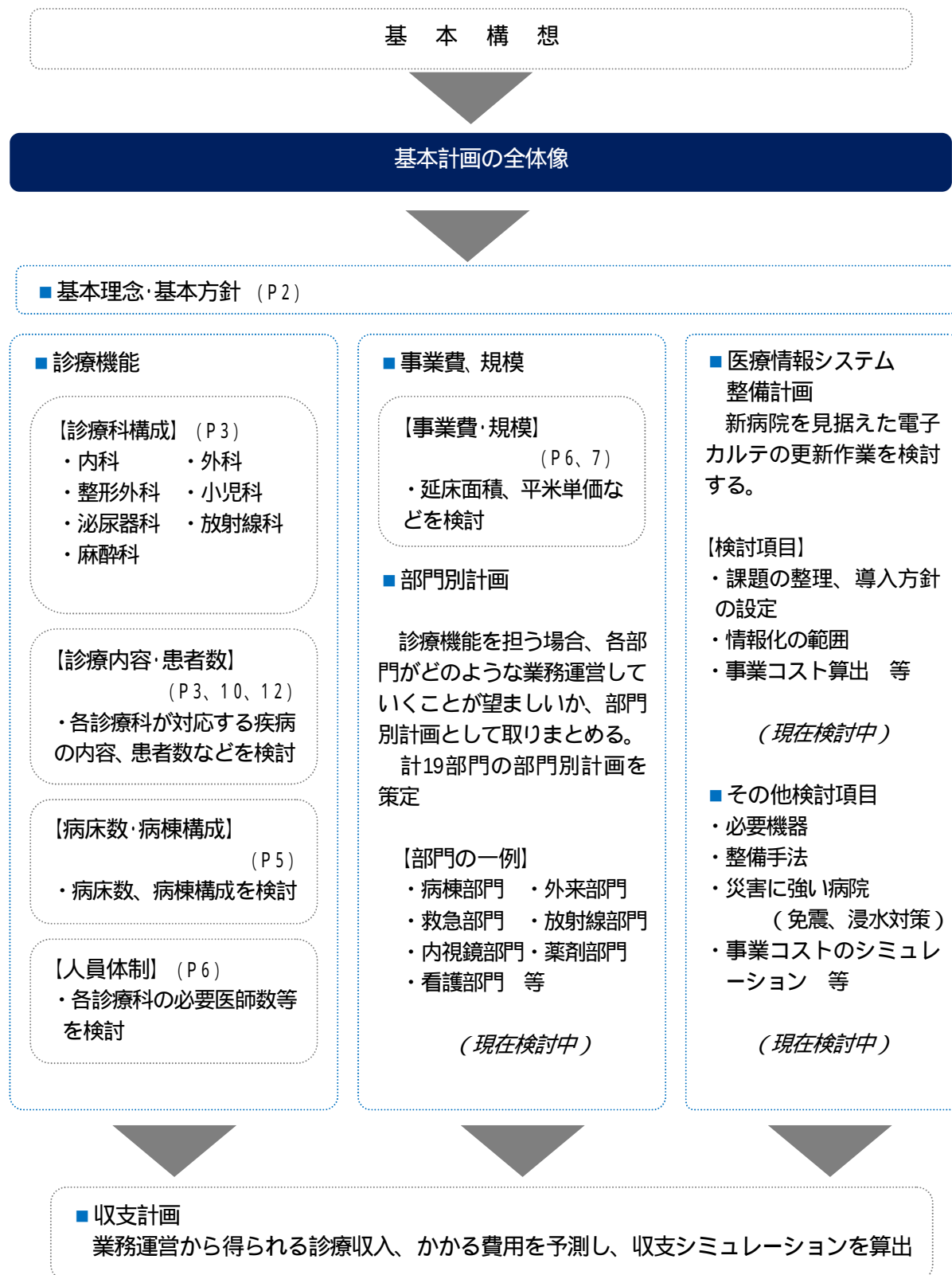
平成 25 年 1 月 25 日
西宮市立中央病院

【 目 次 】

- 1 計画の全体像・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 2 新病院の名称、基本理念と基本方針・・・ P 2
 - (1) 名称
 - (2) 基本理念・基本方針
- 3 診療科構成と特色・・・・・・・・・・・・ P 3
 - (1) 診療科の構成、診療内容（概略）
 - (2) その他、新病院における診療面での特色
 - (3) 新病院の地域医療への影響
- 4 病院規模・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
 - (1) 病床数、病棟数
 - (2) 職員数（常勤）
 - (3) 延べ床面積
 - (4) 平米単価・建築費
 - (5) 全体の事業費
- 5 事業収支予測・・・・・・・・・・・・ P 8
 - (1) パターン 1（病床利用率 90%の場合）
 - (2) パターン 2（病床利用率 85%の場合）

1. 計画の全体像

基本構想に基づく基本計画の全体像は下図のとおりです



2. 新病院の名称、基本理念と基本方針

新病院は、現在の中央病院がそのまま移転するのではなく、新たな病院として再生するものです。したがって、「名称」及び「基本理念」についても見直すことにします。

(1) 名称

(現在検討中)

少なくとも「中央病院」という名称は変更を検討

(2) 基本理念・基本方針

- ・基本構想：「市民のための病院として再生を図る」
- ・基本計画：地域医療の充実に貢献し、市民の期待に応えるため、基本理念・基本方針を以下のように設定します。

新病院の基本理念と基本方針

(1) 基本理念

西宮市立中央病院（名称変更予定）は、市民の期待に応えるため、親しみと信頼のある医療を提供します。

(2) 基本方針

- ・倫理観に基づく患者中心の医療の提供
- ・地域における医療連携の推進
- ・科学的思考に基づく医療の実践
- ・人にやさしい低侵襲医療の推進
- ・人の和に基づくチーム医療の実践
- ・市民・医療従事者の学習機会の提供

(参考) 現在の中央病院の基本理念

基本理念

市民に期待され、親しまれ、信頼される病院であるよう、

- 一、 患者さま中心の心温かな病院をめざします。
- 二、 医学の進歩に対応し、質の高い総合的な診療をめざします。
- 三、 地域医療機関との連携、保健・福祉との協力のもとに、市民の健康を守ります。
- 四、 開かれた病院として、市民・医療関係者の生涯教育の充実に努めます。

3. 診療科構成と特色

(1) 診療科の構成、診療内容(概略)

診療科	診療内容 (概略)
内科	・呼吸器、消化器、循環器、内分泌などの疾患に対する内科診療を提供する。 ・治療のみならず、悪性腫瘍終末期の患者に対する緩和ケア診療を提供する。
	<重点分野>
	悪性腫瘍への対応強化 ... 肺、消化器の悪性腫瘍対応件数を増加
	救急医療への対応強化 ... 呼吸器、消化器の救急疾患の対応件数を増加 緩和ケア診療の実施 ... 悪性腫瘍患者に対する緩和ケア診療を提供
外科	・肺、消化器、乳腺の悪性腫瘍に対する外科的治療を中心とした診療を提供する。 ・鼠径ヘルニア、虫垂炎などへの外科的治療も一定量行う。
	<重点分野>
	悪性腫瘍への対応強化 ... 肺、消化器、乳腺の悪性腫瘍における手術件数を増加 低侵襲手術への対応強化 ... 腹腔鏡手術などの件数を増加
整形外科	・関節領域、手・指の領域、脊椎領域、外傷の領域と整形外科領域の疾患全般に対応する。
	<重点分野>
	救急疾患への対応強化 ... 骨折(各部位)への対応件数を増加 入院手術への対応強化 ... 脊椎、手・指、関節領域における手術件数を増加
小児科	・小児の神経・耳鼻・呼吸器・消化器・内分泌・腎尿路など疾患、小児系の疾患(ウイルス性腸炎等)などに対する診療を提供する。
	<重点分野>
	救急医療への対応強化 ... 2次救急施設として、救急からの入院症例を増加
泌尿器科	・泌尿器科疾患全般に対応する。
	<重点分野>
	悪性腫瘍への対応強化 ... 前立腺などの悪性腫瘍等の対応件数を増加 入院手術への対応強化 ... 特に前立腺肥大症へのレーザー治療の対応件数を増加
放射線科	・CT、MRI等の医療機器を活用し、院内及び院外の画像撮影診断の依頼に対応する。 ・悪性腫瘍に対する集学的治療が行えるよう、放射線治療を提供する。
	<重点分野>
	外来対応の充実 ... 画像診断を通じた地域連携を促進
	放射線治療の対応強化 ... 放射線治療の実施件数を増加 救急対応の充実 ... 救急疾患の検査対応を充実
麻酔科	・手術室における麻酔対応を行うとともに、緩和ケアへの協力、ペインクリニック等に対応する。
	<重点分野>
	手術への対応強化 ... 手術件数の増加に伴い、麻酔件数を増加 緩和ケアへの対応強化 ... 緩和ケア病棟の設立に伴い、対応件数を増加

(2) その他、新病院における診療面での特色

救急診療の強化

(ア) 小児2次救急の輪番日の増加

開院当初は最低週3回、開院後は体制の整備を進め、対応日数を更に増やす。

【小児1次救急】西宮地域で懸案となっている小児1次救急に関しては、医師会、保健所、応急診療所との連携を図り、充実に努める。

(イ) 内科2次救急の輪番日の維持・増加

体制の整備を進め、現在以上の輪番日対応を行う。

(参考) 現中央病院の救急体制

曜日	小児科 2次救急	外科 1次救急	外科 2次救急	内科 2次救急
月	18:00～翌朝7:00	18:00～翌朝8:00	18:00～21:00	18:00～21:00
火	18:00～翌朝7:00		18:00～21:00	18:00～翌朝8:00
水			18:00～21:00	18:00～21:00
木			18:00～21:00	18:00～21:00
金		18:00～翌朝8:00	18:00～翌朝8:00	18:00～翌朝8:00
土			9:00～12:00	9:00～12:00

網掛箇所は、病院群輪番制の救急当番日

(ウ) 救急部の設置

救急診療の質（効率性含む）の向上を図るため、救急部の設置を検討する。

時間内救急の初期診療（トリアージ）には、救急部が対応することを想定する。

悪性腫瘍への対応

(ア) 集学的治療（手術・外来化学療法・放射線治療）

(イ) 緩和ケアの強化

小児科病棟の設置

- ・小児救急、小児医療の充実

現在の混合病棟から小児病棟へ

緩和ケア病棟の設置

- ・治療が困難となったがん患者への対応強化

ハイケアユニット(HCU) の設置

- ・重症患者に対する集中的治療の実施

呼吸器など広域的感染症への対応

- ・広域的感染症患者の受入れを想定した施設構造の検討

大規模災害に対応するための診療機能整備

- ・自然災害や大規模な事故への対応

これらの機能の充実を図るため、検診機能の縮小(人間ドックからの撤退)

ハイケアユニット(HCU)

…High Care Unitの略。「高度治療室、準集中治療室、集中管理病棟」などと訳される。高度で緊急を要する治療・管理を行うための病室。ICUと一般病棟の中間に位置し、ICUよりもやや重篤度の低い患者を受け入れる。

(3) 新病院の地域医療への影響

診療科の特色（強化する部分）が地域医療に与える影響として、以下のようなものを想定しています。

診療科の特色(強化する部分)	地域医療への影響
■ 悪性腫瘍における 急性期・高度医療の提供 (治療件数の増加)	■ 悪性腫瘍患者の市外流出率の減少 ・西宮市内で専門的な高度医療を受けられる機会が増加する。
■ 救急診療の強化 (輪番日の増加等)	■ 市内の救急体制の充実 ・時間外においても患者の状態に応じ、適切な場所において適切な診療を受けることができる。
■ 広域的呼吸器感染症への対応	■ 広域的呼吸器感染症患者への診療提供、感染の抑制 ・広域的呼吸器感染症患者が、適切な診療を受けることができるとともに、感染症患者の拡大を防止(抑制)する。
■ 災害時の対応	■ 大規模災害時に救急医療を提供 ・災害時に救急医療を提供し、市民の救命に寄与する。

4. 病院規模

(1) 病床数、病棟数

■ 新病院の病棟・病床数

病棟構成		病床数	診療科
病 棟	内科病棟	42床	内科
	内科病棟	42床	内科、麻酔科
	外科系病棟	42床	外科
	外科系病棟	42床	外科、整形外科、泌尿器科
	小児科病棟	20床	小児科
	緩和ケア病棟	20床	内科、外科、泌尿器科、麻酔科
ハイケアユニット (HCU)		8床	内科、外科、整形外科
計		216床	

(参考) 現病院の病棟・病床数

病棟構成	病床数	診療科等
4階東病棟	47床	消化器センター、外科、泌尿器科、消化器内科、消化器外科
4階西病棟	46床	内科、整形外科、皮膚科、口腔外科、眼科、麻酔科、泌尿器科
5階病棟	55床	呼吸器センター、内科
6階病棟	45床	小児科、成人混合、緩和病床
計	193床	

(2) 職員数(常勤) (収支シミュレーション上の仮定のもの)

(単位:人)

職種	医師	薬剤師	技 師 ・ 栄養士 ・ 理学/作 業療法士 など	看護師	事 務 ・ 技 能 ・ 労務職	合計
新病院	41	12	32	129	19	233

現病院	48	9	28	108	19	212
-----	----	---	----	-----	----	-----

現病院職員数：H24.12.31 現在

<医師の
内訳>

医師 (内訳)	内科	外科	整形外科	小児科	皮膚科	泌尿 器科	眼科	放射 線科	麻酔科	歯科 口腔 外科	病理 検査	救急	(育児 休業)
新病院	14	7	4	6	-	3	-	1	4	-	1	1	-

現病院	17	9	3	4	3	2	1	1	5	1	1	-	1
-----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(3) 延べ床面積

	基本計画
1床あたり面積	80m ²
延べ床面積	17,280m ² (80m ² × 216床)



	基本構想
1床あたり面積	70m ²
延べ床面積	14,000m ² (70m ² × 200床)

- 《変更理由》
- ・ 基本構想策定時には考慮されていなかった点
小児科病棟、緩和ケア病棟の設置
 - ・ 他の病院、建築予定の病院の傾向

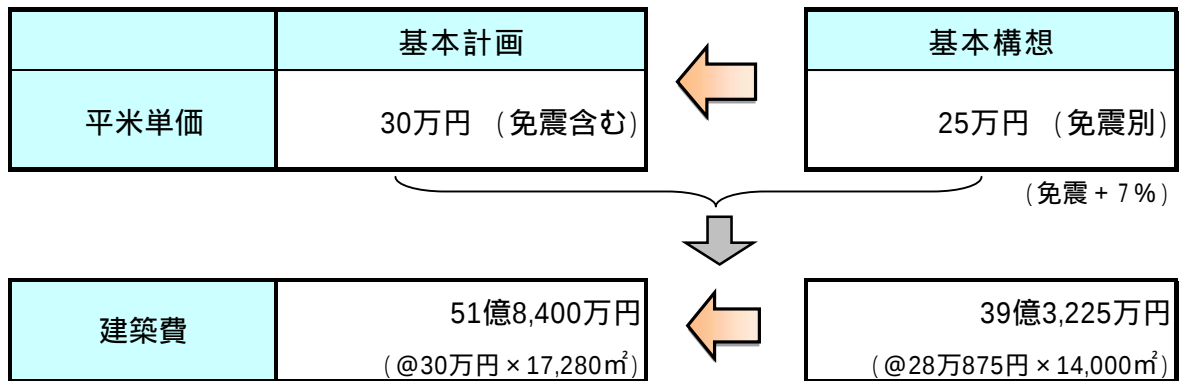
(参考) 1床あたりの面積

【全国の自治体病院】	
全国平均	72.6 m ²
都道府県・政令市	75.8 m ²
市町村・組合	70.9 m ²
(H23.6 全国自治体病院協議会 調べ)	

【建築予定の自治体病院の傾向】	
気仙沼市立病院 (340 床)	88 m ²
松戸市立病院 (600 床)	75 m ²
掛川市・袋井市新病院 (500 床)	80 m ²
高松市民病院 (360 床)	80 m ²
県立尼崎・塚口の統合病院 (730 床)	90 m ²
(各病院の基本計画等より)	

(4) 平米単価・建築費

建築費用の平米単価は、30万円を検討しています。



(参考) 建築予定の病院の傾向

東日本大震災の復興事業が本格化してきたことにより、建築単価が高騰

平米当たりの建築単価

【建築予定の自治体病院の傾向】	
気仙沼市立病院 (340 床)	300,167 円
松戸市立病院 (600 床)	300,000 円
掛川市・袋井市新病院 (500 床)	300,000 円
高松市民病院 (360 床)	約 300,000 円
県立尼崎・塚口の統合病院 (730 床)	318,182 円
(各病院の基本計画等より)	

国立病院機構の仕様単価

(「病院建築標準仕様等の策定に関する検討会報告書」より)

1 m ² 当たり	25 ~ 30 万円
----------------------	------------

(5) 全体の事業費

(単位: 億円)

	用地費	建築費等	合計
基本計画	12.6	89.1	101.7
< 主な変更点 > ・ 建築費 + 12.5 ・ 盛土 + 0.6			
基本構想 策定時	12.6	76.0	88.6

(備考) 「建築費等」には、建物の建築費のほかに、医療機器・備品購入費、設計料、移転費用などが含まれます。

5. 事業収支予測

(1) パターン1 (病床利用率 90%の場合)

- 1 給与水準現状()

科 目			実 績		開院2年目のシミュレーション		
款	項	目	H 2 3 決算	対医業収益比率	H 2 9	対医業収支比率	
病院事業収益			4,626,014		6,052,216		
	医業収益		3,955,026		5,432,523		
		入院収益	2,245,837		3,665,266		
		外来収益	1,190,233		1,270,736		
		その他医業収益	518,956		496,520		
	医業外収益		634,941		619,693		
		受取利息及び配当金	151		151		
		補助金	8,721		8,721		
		一般会計補助金	579,799		583,289		
		その他医業外収益	46,270		27,533		
	特別利益		36,047		0		
	病院事業費用			5,198,613	131.4%	6,314,737	116.2%
		医業費用		5,000,221	126.4%	5,982,594	110.1%
		給与費	2,887,184	73.0%	3,113,096	57.3%	
		材料費	825,563	20.9%	1,133,972	20.9%	
		経費	983,363	24.9%	1,010,951	18.6%	
		減価償却費	271,890	6.9%	695,666	12.8%	
		資産減耗費	3,311	0.1%	0	0.0%	
		研究研修費	28,909	0.7%	28,909	0.5%	
医業外費用		198,393	5.0%	332,143	6.1%		
		支払利息及び 企業債取扱諸費	21,101	0.5%	155,025	2.9%	
		繰延勘定償却	102,153	2.6%	84,402	1.6%	
		雑支出	75,138	1.9%	92,715	1.7%	
特別損失		4,796	0.1%	4,796	0.1%		
医業損益			▲ 1,045,195	▲ 26.4%	▲ 550,071	▲ 10.1%	
経常損益			▲ 608,646	▲ 15.4%	▲ 262,521	▲ 4.8%	
純損益			▲ 577,396	▲ 14.6%	▲ 267,317	▲ 4.9%	
病床利用率 (対・稼働病床数)			79.0%		90.0%		

シミュレーションの給与費は、23年度の平均給与費に想定される職員数を乗じたものです。

- 1 (病床利用率 90%、給与水準現状)
開院 10 年後までのシミュレーション

	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	H 3 7	H 3 8
病院事業収益	6,052,216	6,050,121	6,048,010	6,023,239	6,019,899	6,019,123	6,018,443	6,016,769	6,014,603	6,012,105
医業収益 A	5,432,523	5,432,523	5,432,523	5,432,523	5,432,523	5,432,523	5,432,523	5,432,523	5,432,523	5,432,523
入院収益	3,665,266	3,665,266	3,665,266	3,665,266	3,665,266	3,665,266	3,665,266	3,665,266	3,665,266	3,665,266
外来収益	1,270,736	1,270,736	1,270,736	1,270,736	1,270,736	1,270,736	1,270,736	1,270,736	1,270,736	1,270,736
その他医業収益	496,520	496,520	496,520	496,520	496,520	496,520	496,520	496,520	496,520	496,520
医業外収益 B	619,693	617,598	615,487	590,716	587,376	586,600	585,920	584,246	582,079	579,582
特別利益 C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病院事業費用	6,314,737	6,301,467	6,299,246	6,179,079	6,150,899	6,211,568	6,018,579	5,973,725	6,049,939	6,049,756
医業費用 D	5,982,594	5,984,844	5,987,094	5,905,153	5,907,403	6,006,232	5,808,482	5,760,356	5,836,106	5,836,106
給与費	3,113,096	3,113,096	3,113,096	3,113,096	3,113,096	3,113,096	3,113,096	3,113,096	3,113,096	3,113,096
材料費	1,133,972	1,133,972	1,133,972	1,133,972	1,133,972	1,133,972	1,133,972	1,133,972	1,133,972	1,133,972
経費	1,010,951	1,010,951	1,010,951	1,010,951	1,010,951	1,049,463	1,049,463	1,049,463	1,049,463	1,049,463
減価償却費	695,666	697,916	700,166	618,225	588,094	680,792	472,994	409,916	484,916	484,916
資産減耗費	0	0	0	0	32,381	0	10,048	25,000	25,750	25,750
研究研修費	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909
医業外費用 E	332,143	316,624	312,152	273,926	243,496	205,336	210,097	213,370	213,833	213,650
特別損失 F	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796
医業損益 A-D (G)	▲ 550,071	▲ 552,321	▲ 554,571	▲ 472,630	▲ 474,880	▲ 573,709	▲ 375,959	▲ 327,833	▲ 403,583	▲ 403,583
経常損益 G+B-E (H)	▲ 262,521	▲ 251,346	▲ 251,236	▲ 155,841	▲ 131,000	▲ 192,445	▲ 137	43,044	▲ 35,337	▲ 37,651
純損益 H+C-F	▲ 267,317	▲ 256,142	▲ 256,032	▲ 160,637	▲ 135,796	▲ 197,241	▲ 4,933	38,248	▲ 40,133	▲ 42,447

パターン1 (病床利用率 90%の場合)

- 2 給与水準是正()

			実 績		開院2年目のシミュレーション		
款	項	目	H 2 3 決算	対医業収益比率	H 2 9	対医業収支比率	
病院事業収益			4,626,014		6,052,216		
	医業収益		3,955,026		5,432,523		
		入院収益	2,245,837		3,665,266		
		外来収益	1,190,233		1,270,736		
		その他医業収益	518,956		496,520		
	医業外収益		634,941		619,693		
		受取利息及び配当金	151		151		
		補助金	8,721		8,721		
		一般会計補助金	579,799		583,289		
		その他医業外収益	46,270		27,533		
	特別利益		36,047		0		
	病院事業費用			5,198,613	131.4%	6,152,285	113.2%
		医業費用		5,000,221	126.4%	5,820,142	107.1%
		給与費	2,887,184	73.0%	2,950,644	54.3%	
		材料費	825,563	20.9%	1,133,972	20.9%	
		経費	983,363	24.9%	1,010,951	18.6%	
		減価償却費	271,890	6.9%	695,666	12.8%	
		資産減耗費	3,311	0.1%	0	0.0%	
		研究研修費	28,909	0.7%	28,909	0.5%	
医業外費用		198,393	5.0%	332,143	6.1%		
		支払利息及び 企業債取扱諸費	21,101	0.5%	155,025	2.9%	
		繰延勘定償却	102,153	2.6%	84,402	1.6%	
		雑支出	75,138	1.9%	92,715	1.7%	
		特別損失	4,796	0.1%	4,796	0.1%	
医業損益			▲ 1,045,195	▲ 26.4%	▲ 387,619	▲ 7.1%	
経常損益			▲ 608,646	▲ 15.4%	▲ 100,069	▲ 1.8%	
純損益			▲ 577,396	▲ 14.6%	▲ 104,865	▲ 1.9%	
病床利用率(対・稼働病床数)			79.0%		90.0%		

シミュレーションの給与と費は、兵庫県病院局給料表の適用を前提とした給与費に想定される職員数を乗じたものです。

- 2 (病床利用率 90%、給与水準是正)
開院 10 年後までのシミュレーション

	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	H 3 7	H 3 8
病院事業収益	6,052,216	6,050,121	6,048,010	6,023,239	6,019,899	6,019,123	6,018,443	6,016,769	6,014,603	6,012,105
医業収益 A	5,432,523	5,432,523	5,432,523	5,432,523	5,432,523	5,432,523	5,432,523	5,432,523	5,432,523	5,432,523
入院収益	3,665,266	3,665,266	3,665,266	3,665,266	3,665,266	3,665,266	3,665,266	3,665,266	3,665,266	3,665,266
外来収益	1,270,736	1,270,736	1,270,736	1,270,736	1,270,736	1,270,736	1,270,736	1,270,736	1,270,736	1,270,736
その他医業収益	496,520	496,520	496,520	496,520	496,520	496,520	496,520	496,520	496,520	496,520
医業外収益 B	619,693	617,598	615,487	590,716	587,376	586,600	585,920	584,246	582,079	579,582
特別利益 C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病院事業費用	6,152,285	6,139,016	6,136,795	6,016,628	5,988,448	6,049,117	5,856,128	5,811,274	5,887,488	5,887,305
医業費用 D	5,820,142	5,822,392	5,824,642	5,742,702	5,744,952	5,843,781	5,646,031	5,597,904	5,673,654	5,673,654
給与費	2,950,644	2,950,644	2,950,644	2,950,644	2,950,644	2,950,644	2,950,644	2,950,644	2,950,644	2,950,644
材料費	1,133,972	1,133,972	1,133,972	1,133,972	1,133,972	1,133,972	1,133,972	1,133,972	1,133,972	1,133,972
経費	1,010,951	1,010,951	1,010,951	1,010,951	1,010,951	1,049,463	1,049,463	1,049,463	1,049,463	1,049,463
減価償却費	695,666	697,916	700,166	618,225	588,094	680,792	472,994	409,916	484,916	484,916
資産減耗費	0	0	0	0	32,381	0	10,048	25,000	25,750	25,750
研究研修費	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909
医業外費用 E	332,143	316,624	312,152	273,926	243,496	205,336	210,097	213,370	213,833	213,650
特別損失 F	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796
医業損益 A-D (G)	▲387,619	▲389,869	▲392,119	▲310,179	▲312,429	▲411,258	▲213,508	▲165,381	▲241,131	▲241,131
経常損益 G+B-E (H)	▲100,069	▲88,895	▲88,785	6,611	31,451	▲29,994	162,315	205,495	127,115	124,801
純損益 H+C-F	▲104,865	▲93,691	▲93,581	1,815	26,655	▲34,790	157,519	200,699	122,319	120,005

入院診療単価・患者数・診療収入

より高度、且つ急性期の診療に対応することを踏まえ、各診療科の入院診療単価、患者数を下表のように設定しています。

(ア) 診療科別単価・患者数(HCUの影響除く)

<入院>	実績	H29 シミュレーション (365日・病床利用率90%)			
	H23決算 診療単価	診療単価	患者数 (人/日)	診療収入 (千円)	増額理由
内科	33,821	41,369	79.7	1,203,749	診療単価の低い患者の減少、 呼吸器・消化器疾患の患者数増加を見込む
外科	51,602	64,587	41.0	967,509	手術適用の悪性腫瘍・その他消化器疾患の 患者数増加を見込む
整形外科	38,819	53,721	29.4	577,013	脊椎、関節、外傷、手・指の整形外科領域全般の 患者数増加を見込む
小児科	54,771	48,380	13.5	238,224	救急外来からの入院患者数増加を見込む (救急輪番日の増加が影響)
泌尿器科	53,139	66,859	11.9	289,900	医師数の増加に伴い、対応疾患全般の増加を見込む
麻酔科	36,096	44,021	0.4	5,987	実績と同等を見込む
緩和ケア	-	46,000	18.5	310,615	悪性腫瘍の終末期にある患者の確保を見込む
総 計	40,280	50,629	194.4	3,592,996	

シミュレーション結果は全診療科共通して、7対1看護体制と25対1急性期看護補助体制加算の増収効果を見込む。

(イ) HCUの影響額 : HCU 8床 90.0% 稼働 72,270 千円の増収額

(ウ) 入院収入額 : 上記 収入額 + 増収額 3,665 百万円/年

外来診療単価・患者数・診療収入

高度・急性期の入院診療の提供を前提として、外来診療単価・外来患者数を下表のとおり設定しています。

<外来>	実績	H29 シミュレーション (245日・病床利用率90%)			
	H23決算 診療単価	診療単価	患者数 (人/日)	診療収入 (千円)	増額理由
内科	11,182	12,000	167	491,809	診療単価の低い再診患者の受診割合の減少、 紹介患者、救急患者数増加を見込む
外科	16,293	20,000	64	315,405	外来化学療法、放射線治療の患者数増加を見込む
整形外科	6,082	9,000	51	113,053	診療単価の低い再診患者の受診割合の減少、 紹介患者、救急患者数増加を見込む
小児科	6,792	6,610	32	52,630	救急輪番日の増加による救急外来患者数の 増加を見込む
泌尿器科	12,345	15,000	49	179,454	外来化学療法、放射線治療の患者数増加を見込む
放射線科	21,253	18,428	18	80,226	CT・MRI撮影を目的とした院外からの 紹介患者数の増加を見込む
麻酔科	5,470	5,251	30	38,159	実績と同等を見込む
総 計	11,173	12,599	412	1,270,736	

(2) パターン2 (病床利用率85%の場合)

給与水準是正()

			実 績		開院2年目のシミュレーション		
款	項	目	H 2 3 決算	対医業収益比率	H 2 9	対医業収支比率	
病院事業収益			4,626,014		5,790,350		
	医業収益		3,955,026		5,170,657		
		入院収益	2,245,837		3,437,913		
		外来収益	1,190,233		1,245,507		
		その他医業収益	518,956		487,238		
	医業外収益		634,941		619,693		
		受取利息及び配当金	151		151		
		補助金	8,721		8,721		
		一般会計補助金	579,799		583,289		
		その他医業外収益	46,270		27,533		
	特別利益		36,047		0		
病院事業費用			5,198,613	131.4%	6,072,506	117.4%	
	医業費用		5,000,221	126.4%	5,743,410	111.1%	
		給与費	2,887,184	73.0%	2,939,179	56.8%	
		材料費	825,563	20.9%	1,079,311	20.9%	
		経費	983,363	24.9%	1,000,345	19.3%	
		減価償却費	271,890	6.9%	695,666	13.5%	
		資産減耗費	3,311	0.1%	0	0.0%	
		研究研修費	28,909	0.7%	28,909	0.6%	
	医業外費用		198,393	5.0%	329,096	6.4%	
		支払利息及び 企業債取扱諸費	21,101	0.5%	155,025	3.0%	
		繰延勘定償却	102,153	2.6%	84,402	1.6%	
		雑支出	75,138	1.9%	89,668	1.7%	
		特別損失	4,796	0.1%	4,796	0.1%	
	医業損益			▲ 1,045,195	▲ 26.4%	▲ 572,753	▲ 11.1%
	経常損益			▲ 608,646	▲ 15.4%	▲ 282,155	▲ 5.5%
純損益			▲ 577,396	▲ 14.6%	▲ 286,951	▲ 5.5%	
病床利用率(対・稼働病床数)			79.0%		85.0%		

シミュレーションの給与費は、兵庫県病院局給料表の適用を前提とした給与費に想定される職員数を乗じたものです。

(病床利用率85%、給与水準是正)

開院10年後までのシミュレーション

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
病院事業収益	5,790,350	5,788,255	5,786,144	5,761,373	5,758,033	5,757,257	5,756,577	5,754,903	5,752,736	5,750,239
医業収益 A	5,170,657	5,170,657	5,170,657	5,170,657	5,170,657	5,170,657	5,170,657	5,170,657	5,170,657	5,170,657
入院収益	3,437,913	3,437,913	3,437,913	3,437,913	3,437,913	3,437,913	3,437,913	3,437,913	3,437,913	3,437,913
外来収益	1,245,507	1,245,507	1,245,507	1,245,507	1,245,507	1,245,507	1,245,507	1,245,507	1,245,507	1,245,507
その他医業収益	487,238	487,238	487,238	487,238	487,238	487,238	487,238	487,238	487,238	487,238
医業外収益 B	619,693	617,598	615,487	590,716	587,376	586,600	585,920	584,246	582,079	579,582
特別利益 C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病院事業費用	6,072,506	6,059,236	6,057,015	5,936,848	5,908,668	5,969,337	5,776,348	5,731,494	5,807,708	5,807,525
医業費用 D	5,743,410	5,745,660	5,747,910	5,665,970	5,668,220	5,767,048	5,569,298	5,521,172	5,596,922	5,596,922
給与費	2,939,179	2,939,179	2,939,179	2,939,179	2,939,179	2,939,179	2,939,179	2,939,179	2,939,179	2,939,179
材料費	1,079,311	1,079,311	1,079,311	1,079,311	1,079,311	1,079,311	1,079,311	1,079,311	1,079,311	1,079,311
経費	1,000,345	1,000,345	1,000,345	1,000,345	1,000,345	1,038,857	1,038,857	1,038,857	1,038,857	1,038,857
減価償却費	695,666	697,916	700,166	618,225	588,094	680,792	472,994	409,916	484,916	484,916
資産減耗費	0	0	0	0	32,381	0	10,048	25,000	25,750	25,750
研究研修費	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909	28,909
医業外費用 E	329,096	313,576	309,105	270,879	240,449	202,289	207,050	210,322	210,786	210,603
特別損失 F	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796	4,796
医業損益 A-D (G)	▲572,753	▲575,003	▲577,253	▲495,313	▲497,563	▲596,391	▲398,641	▲350,515	▲426,265	▲426,265
経常損益 G+B-E (H)	▲282,155	▲270,981	▲270,871	▲175,476	▲150,635	▲212,080	▲19,771	23,409	▲54,972	▲57,286
純損益 H+C-F	▲286,951	▲275,777	▲275,667	▲180,272	▲155,431	▲216,876	▲24,567	18,613	▲59,768	▲62,082

入院診療単価・患者数・診療収入

(ア) 診療科別単価・患者数(HCUの影響除く)

<入院>	実績	H29 シミュレーション (365日・病床利用率85%)			
	H23決算 診療単価	診療単価	患者数 (人/日)	診療収入 (千円)	増額理由
内科	33,821	41,369	79.2	1,195,572	診療単価の低い患者の減少、 呼吸器・消化器疾患の患者数増加を見込む
外科	51,602	64,940	39.3	930,973	手術適用の悪性腫瘍・その他消化器疾患の 患者数増加を見込む
整形外科	38,819	53,350	25.6	498,737	脊椎、関節、外傷、手・指の整形外科領域全般の 患者数増加を見込む
小児科	54,771	48,380	13.5	238,224	救急外来からの入院患者数増加を見込む (救急輪番日の増加が影響)
泌尿器科	53,139	64,487	9.7	227,510	医師数の増加に伴い、対応疾患全般の増加を見込む
麻酔科	36,096	44,021	0.4	5,987	実績と同等を見込む
緩和ケア	-	46,000	16.0	268,640	悪性腫瘍の終末期にある患者の確保を見込む
総 計	40,280	50,224	183.6	3,365,643	

シミュレーション結果は全診療科共通して、7対1看護体制と25対1急性期看護補助体制加算の増収効果を見込む。

(イ) HCUの影響額 : HCU 8床 90.0% 稼働 72,270 千円の増収額

(ウ) 入院収入額 : 上記 収入額 + 増収額 3,438 百万円/年

外来診療単価・患者数・診療収入

<外来>	実績	H29 シミュレーション (245日・病床利用率85%)			
	H23決算 診療単価	診療単価	患者数 (人/日)	診療収入 (千円)	増額理由
内科	11,182	12,000	167	491,272	診療単価の低い再診患者の受診割合の減少、 紹介患者、救急患者数増加を見込む
外科	16,293	20,000	62	305,886	外来化学療法、放射線治療の患者数増加を見込む
整形外科	6,082	9,000	51	111,533	診療単価の低い再診患者の受診割合の減少、 紹介患者、救急患者数増加を見込む
小児科	6,792	6,610	32	52,630	救急輪番日の増加による救急外来患者数の 増加を見込む
泌尿器科	12,345	15,000	45	165,801	外来化学療法、放射線治療の患者数増加を見込む
放射線科	21,253	18,428	18	80,226	CT・MRI撮影を目的とした院外からの 紹介患者数の増加を見込む
麻酔科	5,470	5,251	30	38,159	実績と同等を見込む
総 計	11,173	12,548	405	1,245,507	